

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

紀の川市立田中小学校
教諭 田中涼太

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について修養を積み、教員としての資質能力を高めるとともに、今日的教育課題解決のための研修・研究を行い、その成果を広く学校現場に還元することを目的とし、実施されている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012, 小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修期間中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修への参加等をとおして、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

修養として、様々な研修を受講し学んだ知識や経験は、今後の教員生活における大きな支えとなるはずである。これらの研修を聴講することにより、自身の授業実践を見直す必要性やミドルリーダーとしての役割について知る貴重な機会となった。授業実践における課題を解決するために、文献を読み進めたり、先進校の取組を参観したりすることで、授業力の向上に努めることができた。県内では大量退職、大量採用が続いており、若手教員が増加している。そのため、ミドルリーダーとしての使命感と責任感を持って、若手教員に対しても積極的な支援やアドバイスをしていかなければならない。

また、研修員研修では、新学習指導要領の方向性や主体的・対話的で深い学びが必要とされるに至った背景などについて学んだ。授業づくりにおいては、児童が主体的に学習に取り組み、能動的に思考を展開していく場面を作り出すことが必要だということに気付くことができた。

研究では、単元構想表を作成する際に、単元のゴールから遡って各時間における学習活動を考えていくことが、効果的であることに気付いた。

研修員生活での研究と修養をとおして、今までよりも広い視野で授業を考えることが可能になったと感じている。今後も、学び続けることの大切さを忘れず、研鑽に努める。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間をとおして行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等の作成、模擬の授業実施	・授業・研修研究計画を立て、第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析 ・教育センター学びの丘研究報告会で発表	・研究報告書、資料の作成

修 養	所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」	
	■「授業力」「組織開発力」「研修力(学び続ける力)」向上トレーニング	
	■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講	
	■初任者研修、10年経験者研修等聴講	
	■学びの丘指導主事等による研修員研修	

図 研修の概要